

第1回 ゲノム医療実現推進に関するアドバイザリーボード 議事概要

■日時:平成29年10月11日(水)10時00分～11時00分

■場所:中央合同庁舎4号館12階 共用1214 特別会議室

■出席者:

議長: 内閣官房 和泉 健康・医療戦略室長

構成員: 文部科学省 関 研究振興局長

厚生労働省 佐原 大臣官房審議官

春日 雅人 日本医療研究開発機構 疾病克服に向けたゲノム医療
実現プロジェクト プログラムディレクター

金田 安史 日本遺伝子細胞治療学会 理事長

松原 洋一 日本人類遺伝学会 理事長

門田 守人 日本医学会 会長

米村 滋人 東京大学大学院法学政治学研究科 准教授

■概要:

1. 開会

冒頭、和泉健康・医療戦略室長(議長)からの挨拶があり、引き続き、各構成員から自己紹介と挨拶が行われた。

2. 議題

1) アドバイザリーボードの設置と今後の進め方について

構成員からの主なご意見は以下のとおり。

- ・アドバイザリーボードでの議論はどのような形で生かされるのか。
- ・ゲノム編集については、他の会議体でも議論されているが、それらの活動との整合性はどうか。

事務局より以下の説明があった。

- ・アドバイザリーボードでいただいたご意見は協議会に報告し、協議会において引き続き議論する。
- ・内閣府において研究の規制の在り方を検討しているところ。本会議では、その範囲において、国としてどのような研究を積極的に推進していくか等、研究推進の面について議論を行いたい。

2) 次回(10/26)の議題「キャリアパスの視点から見たゲノム医療関連人材の育成」について

構成員からの主なご意見は以下のとおり。

- ・この議題について結論を導くのは年内を予定されているが、年内にまとめられる内容かどうか。年内で結論を出すことが難しい場合もあるのではないか。
- ・日本医学会加盟の各学会において個別様々な認定資格があり、一部重複のある状態になっている点は課題だと考えている。
- ・遺伝についての関連学会は、日本人類遺伝学会を中心に検討を進めてきた経緯があり、連携は取れていることから、現状の資格制度をベースに検討することが望ましいのではないか。
- ・生活習慣病など遺伝素因との因果関係が強くない疾患における専門家の育成はより困難であり問題であると考えている。

和泉議長より以下の発言があった。

- ・内容によっては半年位で整理できるものもあるし、長期的な検討も必要なものもあるので、時間軸にはとらわれずに検討したい。

事務局より以下の説明があった。

- ・本会においては、学会認定資格のあり方について検討するものではなく、有識者の皆様の学会でのご経験・ご知見を踏まえて、国としてどのような取り組みをすべきかという観点からご示唆をいただきたい。

3. 閉会

以上